

若手教師の専門性向上のための授業リフレクション

による指導改善効果の検討

—知的障害特別支援学校における自立活動の時間に焦点を当てて—

教育実践高度化専攻 児童発達支援コース 特別支援教育実践系

氏名 (高橋 翔織)

本研究は、若手教師の専門性形成のための授業リフレクションの要件を、実践を通して検討した。本実践は、研究者（以後、授業者とする）の知的障害特別支援学校における自立活動の時間の指導を対象に実施した。授業者は、自身の授業映像を熟練教師である研究協力者と観察し、対話によるリフレクションを継続した。結果、授業者の思考内容の変化として、教師の教授行動に関する評価基準の明確化があった。また、授業者の思考内容の変化は、授業実践での行動にも及んだ。その変化として、対象児への対応行動のレパートリーの増加や授業場面での即興的な判断があった。以上から、若手教師の専門性形成のための授業リフレクションの要件として、映像を用いたリフレクション、熟練教師との協働的なリフレクション、継続的なリフレクションの3点が示された。また、これらは、特別支援学校における自立活動の指導においても、有効であると考えられる。